

第 15 回東北 MIS t 研究会 開催報告

2022 年 1 月 23 日（日）、第 15 回東北 M I S t 研究会を開催させていただきました。仙台での現地開催を含むハイブリッド開催を行う準備を進めておりましたが、新型コロナの再流行を受けまして、直前で完全 W e b 開催し、座長の先生方と仙台より配信いたしました。中止になる会も多い中、東北 MIS t 研究会の先生方から多大なご支援をいただき、無事開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

全体の参加者は 60 名で、一般演題は合計 14 題ご発表いただきました。演題は D I S H 合併骨折の治療、L L I F、テリパラチド、スクリュー挿入の精度、脊椎内視鏡、エコー下頸椎ブロック、経仙骨的脊柱管形成術、そして仙腸関節の診断と多岐にわたる内容でした。討論の時間を長めにとりましたが、時間が足りなくなるほど活発に討論していただきました。Best presentation award は新潟大学整形外科、田中裕貴先生の演題「テリパラチドの椎弓根皮質骨・椎体皮質骨に対する影響：腰椎固定術患者における縦断的 CT 解析」と福島県立医科大学整形外科、小林洋先生の演題「DISH を伴う椎体骨折における、メイフィールド三点固定器を用いた体位の工夫-前方開大予防、整復の試み-」が受賞されました。また Best discussor award は秋田大学整形外科、木村竜太先生が受賞されました。

特別講演としては、旭化成ファーマに共催いただき、香川県立中央病院整形外科部長の生熊久敬先生に「脊椎側臥位手術（single position surgery）の適応とコツそして落とし穴について（骨粗鬆症例を含めて）」という題でご講演いただきました。生熊先生が、現在までに取り組まれて発展させてきた single position surgery における側臥位経皮的椎弓根スクリュー挿入法、ナビゲーションシステムの応用、そして DISH 症例に対する新しいスクリュー挿入法などについて、実際の症例と共に明確なデータを示していただき非常に興味深く拝聴いたしました。

コロナ禍で 2 年連続の Web 開催となりましたが、特別講演をいただきました生熊先生、ご参加いただきました先生方、ご協力いただいた企業の皆様のおかげで無事に開催できたことを改めて深謝申し上げます。

次回の第 16 回東北 MIS t 研究会は、新潟中央病院整形外科、脊椎・脊髄外科センター、勝見敬一先生が当番世話人をお務めになり 2022 年 1 月に開催予定となっております。全国の先生方にも是非ご参加いただくようよろしくお願いいたします。

第 15 回東北 MIS t 研究会
当番世話人
福島県立医科大学整形外科
渡邊和之

